

縄文人は農耕を行ったのか

— 大野原遺跡の意味するもの —



有明総合文化会館周辺は今から約3,000年前頃の縄文時代に栄えた「大野原遺跡」です。この遺跡は粘土の貯蔵穴や、多くの焼土跡など土器製作を想像させる珍しい遺構の存在が注目されました。

そのため当時の有明町では、郷土の貴重な文化遺産として、文化会館の地下に、多数の出土品や剥ぎ取り遺構を展示した「大野原遺跡展示館」を設けました。

今年はその開館 10 周年の節目です。

その記念講演会として、大野原遺跡の出土品から日本最古の大豆を発見するなど、精力的に活動されている島原出身の考古学者、小畑弘己先生をお招きし、縄文時代の郷土についてのお話をうかがいます。

日 時 平成21年12月6日(日) 午後2時から

場 所 有明文化会館 2階 多目的ホール

入場料 無 料

講 師 おばた ひろき
小畑 弘己 先生

(熊本大学文学部准教授)



穀物を食べるコケゾウムシ:縄文土器に残る痕跡

主 催 島原市教育委員会・島原市民文化講座・有明文化会館

お問合わせ 島原市教委育委員会社会教育課 電話68-5473